

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	山田 富美雄 (やまだ ふみお)	所属	関西福祉科学大学
研究集会等名称	まばたき研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員        10名 (うち認定心理士    3名) 非会員      3名 (うち認定心理士    0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>まばたき研究会は、生理反応および行動であるまばたき(瞬目)の心理学的側面を研究対象とし、主として実験的検討における瞬目の役割を議論し、発展させることを目的としている。近年、脳内機構との関連がより明確化しつつある瞬目は、実験室内での測定だけでなくフィールド研究での利用も増えてきている。そこで、日本心理学会第81回大会(久留米シティプラザ)における大会2日目の2017年9月20日(水)14:30~16:10に、公募シンポジウムSS-018「教育場面でもまばたきでコミュニケーションしよう!」を開催した。シンポジウムでは、教育現場におけるコミュニケーション支援に関連した瞬目に関する2研究が話題として提供された。小学校の授業場面における生徒と教員の瞬目同期に注目し、新たな瞬目同期の分析方法を提案した研究(野村亮太, 東京大学)、および、特別支援教育場面における重度重複障害児への援助指標としての瞬目に注目した研究(宮地弘一郎, 信州大学)であった。これらは、瞬目指標から対象者の心理的变化を評価するだけでなく、脳内視覚情報処理活動も考慮した検討を行っており、他の脳内活動を反映する指標より容易に測定できる瞬目の特性を活かしたもので、多様な可能性を持つ瞬目研究の検証、およびそこに潜む問題点についての議論を重ねる場となった。開催地と時期および大会プログラム構成の都合上、まばたき研究会構成メンバーからのシンポジウム出席者は少なかったが、研究会のメーリングリストを利用した告知や報告などに対して意見や感想が寄せられた。</p> <p>なお、今年度は、年1回2日間(1泊2日)の形式で毎年3月に継続的に行ってきた定例研究集会の実施が、日程調整がうまくいかず残念ながらならなかった。しかし、研究会の主要な構成メンバーによる話し合いによって、次回2018年度の定例研究集会は、例年通りの時期(平成30年3月末の2日間)に、東京または大阪にて開催することが提案された。加えて、来年度の日本心理学会にて、公募シンポジウムに応募するために準備を進める方向性についても賛同を得ている。</p>		

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
まばたき研究会				
研究集会開催日：2017年9月20日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	山田 富美雄	関西福祉科学大学	○	
2	福田 恭介	福岡県立大学人間社会学部	○	
3	田中 裕	川村学園女子大学	○	
4	大森 慈子	仁愛大学	○	
5	宮地 弘一郎	信州大学		
6	野村 亮太	東京大学	○	
7	大石 武信	T-time 心理ラボ	○	
8	水田 敏郎	仁愛大学	○	
9	小田 哲久	愛知工業大学	○	
10	早見 武人	岡山大学大学院 自然科学研究科	○	
11	渡部 美智	福岡県立大学大学院 人間社会学研究科		
12	柳谷 学	福岡県立大学大学院 人間社会学研究科		
13	西村 知香	川村学園女子大学	○	
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2018年3月30日

日本心理学会研究会 2017年度会計報告書

研究会名称 まばたき研究会

研究会番号 研17014

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
	返金（日本心理学会）	¥30,000

---

支出合計 ¥30,000